

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学工学部2年 山下 祥平

本プログラムは自分にとって初めての短期留学でした。以前から中国語や中国文化に関する興味があったため、自分の専攻（化学）とは直接関わらないものでありますが、事前説明会を聞いた上で中国語学習という自分の目的に対して役に立つ内容だと感じ、香港という場所自体も魅力的であったので、今回の多文化教養演習に参加することを決定しました。現地ではCLCP3の授業に配属されたのですが、授業で先生が用いる言語は基本すべて中国語で、これまでの人生で最も中国語のシャワーを浴び続ける3週間となりました。最初は先生の話す速さ（それでも街中で聞こえて来る話し声や現地学生の砕けた会話に比べると遥かにゆっくりはつきり話して下さっていました）に頭が追い付かない、加えて聞いた言葉の字面が思い浮かばず、必死で神経を集中して聞いていたのですが、徐々にある程度慣れて頭が追いつくようになって行きました。授業中は先生の話す中国語をひたすら聞くのを主として、自分の積極性次第で手を挙げて発言することが出来る、という形で、先生の話に集中したい場合にはそちらの神経を使い、少し余裕がある時には発言をするという授業の受け方が出来て個人的にとっても助かりました。結果的に授業や現地学生との交流を通して、自分の聞き取り能力が一段階上がったと感じます。常に自分の目や耳に飛び込んでくる言語が現地語であるという環境は普段日本で生活している時と比較して現地語が自分の中に入ってくる分量の桁が全く変わって来ます。日本であれば相当な意識と努力を捧げて構築する必要のある環境ですが、その部分に注意を割かず、純粋に学習に集中出来るという点で、留学というものが持つ意味を感覚として実感し、自分の留学に対する意欲がますます高まりました。

また、もう一つ自分に強い影響を与えたのは、現地滞在中に深圳経済特区を訪れたことです。地理的には香港のすぐ近くにある深圳ですが、そこはもう大陸中国であり香港とは異なる点が多く存在するだけでなく、現代中国の発展を目の当たりにして、私個人にとっては、これまでに訪れたどんな場所よりも刺激的な場所だと感じました。冒頭に述べた以前からの中国という国への興味は結果遥かに大きなものになり、香港と見比べてみたいという意味でも、特に大陸への興味が非常に高まりました。次は必ず大陸に行きたいと思います。

今後の自分の進路への影響ですが、かねてより考えていた中国への留学への気持ちが固まりました。3週間という短い期間ではありますが、このプログラムが自分の進路選択に与えた影響はひじょうに大きなものだったと捉えています。帰国後の報告会で先生が仰っていたように今回の短期留学はあくまでキッカケであり、今後の留学や進路選択に活かすことが最も大事なことなので、まずは語学力のより一層の向上は当然のこととして、具体的な留学計画を立てていきたいと思っています。本当に得るものの多い経験となりました。